PassLogic Enterprise Edition

Ver.4.3.2

バックアップコンバーター ガイド

第 1.0 版

(Manual 1-3)

PASSLOGY™

本書について

本書は、PassLogic Ver 3.1.0 以降から Ver 4.3.2 へデータ移行するためのバックアップコンバーターガイドです。

商標および免責事項

PassLogic およびパスロジは、パスロジ株式会社の登録商標です。
その他、本書に記載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。
本製品は医療機器、原子力施設、航空関連機器、軍備機器、輸送設備やその他人命に直接関わる施設や設備など、高い安全性が要求される用途での使用は意図されていません。該当する施設や設備には使用しないでください。

版権/注意

本書の内容の一部または全部を無断で複写転載することを禁じます。
本書に掲載の内容および製品の仕様などは、予告なく変更されることがあります。
本書の内容は万全を期して作成しておりますが、万一ご不明な点や誤り、記載漏れ、乱丁、落丁などお気づきの点がございましたら、弊社までご連絡ください。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

目次

はじめに 1
１ データ移行手順 2
1.1 バックアップファイルの取得 3
Ver 3.1.0 でのバックアップファイルの取得 3
3.1.0 のバックアップファイルを取得する際の注意事項(RADIUS 認証ご利用時) 6
Ver 4.1.x, 4.2.0, 4.3.0, 4.3.1 でのバックアップファイルの取得 8
1.2 Ver 4.3.2 でのバックアップファイルの変換 10
1.2.1 バックアップファイルの変換手順 10
1.2.2 入力必須項目とオプション 15
1.3 Ver 4.3.2 でのバックアップファイルからのリストア 16
２ 注意事項 18

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

はじめに

本資料では、PassLogic Enterprise Edition Ver 3.1.0 以降から Ver 4.3.2 へ移行を行う際の、データ移行に関する情報を提供します。Ver 3.0.0 以前から Ver 4.3.2 への移行をする場合は、事前に Ver 3.1.0 へアップデートを行う必要があります。

Ver 3.1.0 のバックアップファイル、あるいは Ver 4.1.x のバックアップファイル、あるいは Ver 4.2.0、Ver 4.3.0 のバックアップファイルを Ver 4.3.2 のバックアップファイル変換し、新たに構築した Ver 4.3.2 へリストアを行うことで、引き続き PassLogic を利用することができます。

事前に「2 注意事項」をご確認の上、作業を行ってください。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

1 データ移行手順

PassLogic Enterprise Edition Ver 3.1.0 以降から Ver 4.3.2 へのデータの移行は以下の手順で行います。
(注意) PassLogic Enterprise Edition Ver 3.0.0 以前をお使いの場合は、Ver 3.1.0 へのアップデートをお願いします。

(1) Ver 3.1.x 以降の既存環境からバックアップファイル取得
(2) バックアップファイルを Ver 4.3.2 形式のバックアップファイルにコンバート
(3) Ver 4.3.2 環境へのリストア

バックアップファイル取得の際し、既存環境の PassLogic のバージョンに対応した「バックアップファイルの取得」の章に記載されている、移行対象に含まれないデータをご確認ください。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

1.1 バックアップファイルの取得

Ver 3.1.0 でのバックアップファイルの取得

変換対象となるバックアップファイルの取得を行います。

下記の情報は移行対象に含まれません。

特殊ハンドラ設定 (注意)1
/opt/passlogic/data/conf/settings.conf の一部(URL_HANDLER_SHOW 設定)
pgsql 障害発生時のメール送信設定 (注意)1
/opt/passlogic/pgsql/data/failover_mail.sh
SSH 鍵 (注意)1
{PassLogic インストーラディレクトリ}/ssh/authorized_keys
{PassLogic インストーラディレクトリ}/ssh/id_rsa
{PassLogic インストーラディレクトリ}/ssh/id_rsa.pub
{PassLogic インストーラディレクトリ}/ssh/known_hosts
Apache 設定 (注意)1
/etc/httpd/conf/httpd.conf
/opt/passlogic/data/conf/passlogic-admin.conf
PHP 設定 (注意)1
/etc/php.ini
PassLogic アプリケーションログ
「ユーザの端末固定」に関する各ユーザの情報 (注意)2
テンプレートファイル (注意)3
/opt/passlogic/apps/passlogic-lang.xml
/opt/passlogic/apps/passlogic-log.xml
/opt/passlogic/配下で拡張子が ihtml.php であるファイル

(注意)1 必要に応じて Ver 4.3.2 環境にて手動で設定を行ってください。
(注意)2 「ユーザの端末固定」機能を Ver 4.3.2 で引き続き利用する場合は、運用管理ガイド (admin 権限)の『4.2 ユーザの端末固定』に従い、Ver 4.3.2 環境にて再設定を行ってください。
(注意)3 テンプレートファイルをカスタマイズしている場合は、Ver 4.3.2 環境で再度カスタマイズが必要です。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

(注意)4 設定 > UI(ユーザインターフェイス)設定で、デフォルトで用意されている英語「en」と日本語「ja」以外の言語を追加している場合、新しいバージョンで新規に追加されたメッセージリソースの設定値が空の状態となります。言語を追加している場合、バージョンアップ後、設定 > UI(ユーザインターフェイス)設定画面でメッセージリソースを登録してください。

/opt/passlogic/data/conf/settings.conf でファイル管理されていた下記設定内容は管理画面より指定するようになりました。

<PL_SESSION_TIMEOUT>
サーバ設定の【項目解説】「セッション有効期限」をご参照ください。

<MULTI_LOGIN>
サーバ設定の【項目解説】「マルチログイン」をご参照ください。

<DOMAIN_PULLDOWN>
全般設定の【項目解説】「ドメイン選択表示」をご参照ください。

<DISABLE_SAVED_AD_PASSWORD>
全般設定の【項目解説】「AD パスワード欄表示」をご参照ください。

<REMINDER_URL_EXPIRY>
全般設定の【項目解説】「パスワードリマインダーURL 有効期限」をご参照ください。

バックアップファイルの取得を行う前に設定ファイルの修正を行います。

① 設定ファイル/opt/passlogic/data/conf/redundant.conf から SERVER2, SERVER3 の設定を削除します。

修正前

```
SERVER0={冗長化構成を構築されている場合、設定値があります}
SERVER1={冗長化構成を構築されている場合、設定値があります}
SERVER2=
SERVER3=
```

修正後

```
SERVER0={冗長化構成を構築されている場合、設定値があります}
SERVER1={冗長化構成を構築されている場合、設定値があります}
```


Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

PassLogic Ver 3.1.0 の管理ツールにて、バックアップファイルを取得します。下図のように［メンテナンス］>［バックアップ］からファイルをダウンロードしてください。また、③、④で指定するパスワードは、変換・リストア時に必要となります。

PassLogic Enterprise Edition Ver 3.1.0 管理者ツール画面

また、コマンドラインからもバックアップファイルを取得することが可能です。

```
# sh /opt/passlogic/apps/tools/backup.sh {バックアップファイルのパスワード}
```

(注意)バックアップファイルは /opt/passlogic/tmp/passlogicbackup.zip に出力されます。

(注意)出力先パスに同名のファイルが既に存在する場合、上書きします。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

バックアップファイルの取得を行う前に変更した設定ファイルを、元に戻します。

① 設定ファイル/opt/passlogic/data/conf/redundant.conf に SERVER2, SERVER3 を再設定します。

修正前

```
SERVER0={冗長化構成を構築されている場合、設定値があります}
SERVER1={冗長化構成を構築されている場合、設定値があります}
```

修正後

```
SERVER0={冗長化構成を構築されている場合、設定値があります}
SERVER1={冗長化構成を構築されている場合、設定値があります}
SERVER2=
SERVER3=
```

3.1.0 のバックアップファイルを取得する際の注意事項（RADIUS 認証ご利用時）

以下の場合に、clients.conf が異常設定例になることがあります。

- 2.3 未満から 3.1 へアップデートした場合
- clients.conf をカスタマイズしている場合

そのため、radius 設定ファイル の確認をお願いします。

設定ファイル /opt/passlogic/data/conf/clients.conf に、以下の通常設定例にあるように、 ipaddr = xxx.xxx.xxx.xxx (radius 機器の IP アドレス)の行が存在することを確認してください。

異常設定例のように、ipaddr の行がない場合、ent-3.10 の管理画面 > SSL-VPN > SSL-VPN 機器登録で表示される radius 機器一覧画面から、該当機器の編集をクリックし、設定内容を変更せずに再登録してください。

その後 clients.conf に該当機器の設定に、通常設定例のように、ipaddr の行が含まれることを確認した後、3.1.0 のバックアップファイルを取得してください。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

通常設定例

```
client xxx.xxx.xxx.xxx {
ipaddr = xxx.xxx.xxx.xxx
secret = secret
shortname = Shortname
}
```

異常設定例

```
client xxx.xxx.xxx.xxx {
secret = secret
shortname = Shortname
}
```


Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

Ver 4.1.x, 4.2.0, 4.3.0, 4.3.1 でのバックアップファイルの取得

変換対象となるバックアップファイルの取得を行います。

下記の情報は移行対象に含まれません。

特殊ハンドラ設定 (注意)1
/opt/passlogic/apps/lib/settings/global_setting.php の一部(URL_HANDLER_SHOW 設定)
pgsql 障害発生時のメール送信設定 (注意)1
/opt/passlogic/pgsql/data/failover_mail.sh
SSH 鍵 (注意)1
{PassLogic インストーラディレクトリ}/ssh/authorized_keys
{PassLogic インストーラディレクトリ}/ssh/id_rsa
{PassLogic インストーラディレクトリ}/ssh/id_rsa.pub
{PassLogic インストーラディレクトリ}/ssh/known_hosts
Apache 設定 (注意)1
/etc/httpd/conf/httpd.conf
/opt/passlogic/data/conf/passlogic-admin.conf
PHP 設定 (注意)1
/etc/php.ini
PassLogic アプリケーションログ
共通暗号鍵ファイル (注意)2
/opt/passlogic/lib/lib/plcrypt.conf
PassLogic リバースプロキシ設定ファイル (注意)1
/opt/passlogic/data/conf/xauth_passlogic_00.conf
テンプレートファイル (注意)3
/opt/passlogic/apps/passlogic-lang.xml
/opt/passlogic/apps/passlogic-log.xml
/opt/passlogic/apps/admin/tmpl/json/userimport.json
/opt/passlogic/配下で拡張子が ihtml.php であるファイル

(注意)1 必要に応じて Ver 4.3.2 環境にて手動で設定を行ってください。
(注意)2 共通暗号鍵ファイルは Ver 4.3.2 をインストール時に設定した鍵ファイルを利用します。
(注意)3 テンプレートファイルのカスタマイズしている場合は、Ver 4.3.2 環境で再度カスタマイズが必要です。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

PassLogic Ver 4.1.x、あるいは 4.2.0、4.3.0、4.3.1 のメンテナンスツールにて、バックアップファイルを取得します。下図のように［バックアップ］からファイルをダウンロードしてください。また、②、③で指定するパスワードは、変換・リストア時に必要となります。

PassLogic Enterprise Edition Ver 4.1.1(4.2.0, 4.3.0, 4.3.1) メンテナンスツール画面

また、コマンドラインからもバックアップファイルを取得することが可能です。

```
# sh /opt/passlogic/apps/tools/backup.sh {バックアップファイルのパスワード}
```

(注意)バックアップファイルは /opt/passlogic/tmp/passlogicbackup.zip に出力されます。

(注意)出力先パスに同名のファイルが既に存在する場合、上書きします。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

1.2 Ver 4.3.2 でのバックアップファイルの変換

1.2.1 バックアップファイルの変換手順

ファイルの変換は PassLogic Ver 4.3.2 で行う必要があります。『インストールガイド』に従ってインストールを行ってください。

PassLogic サーバの冗長化を行う場合は、『インストールガイド 7 冗長化構成』に従い、あらかじめ冗長化を構成し、「7.2 冗長化構成のセットアップ」の以下①～③までの段階を実施した上で、片系サーバにてバックアップファイルの変換を実施してください。

① PassLogic 認証ソフトウェアインストール
② データベース冗長化設定
③ データベース冗長化状況確認

以降の作業は PassLogic インストール後の初期状態(設定変更を実施していない)の環境にて行ってください。弊社では設定変更を実施した Ver 4.3.2 環境での変換は確認しておらず、正しくデータが変換されない可能性があります。

バックアップファイルをコンバートするには、PassLogic が稼働するサーバ OS にログイン後、root ユーザでバックアップコンバーターツールを実行します。

必要に応じて「1.2.2 入力必須項目とオプション」に記載のオプションを指定してください。

① 概要

コンバーターは以下のディレクトリにインストールされています。

```
/opt/passlogic/apps/tools/backup_converter/backup_{バックアップファイルのバージョン}_to_{コンバート先のバージョン}/
```

コンバーターは、複数のバージョンを跨いで一度にファイル変換することはできません。PassLogic のバージョン単位で実施が必要です。

＜Ver 3.1.0 ⇒ Ver 4.3.2＞

Ver 3.1.0 のバックアップファイルをコンバーターで Ver4.3.2 用のファイルに変換する際の大まかな流れは以下の通りです。

【STEP 1】

Ver3.1.0 のバックアップファイルを、該当ディレクトリ(backup_310_to_401)に配置

【STEP 2】

同ディレクトリ(backup_310_to_401)の convert.php を実行し v4.0.1 用のバックアップファイルを生成

【STEP 3】

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

Ver4.0.1 用のバックアップファイルを、該当ディレクトリ(backup_401_to_411)に配置
【STEP 4】
同ディレクトリ(backup_401_to_411)の convert.php を実行し v4.1.x 用のバックアップファイルを生成
【STEP 5】
Ver4.1.x 用のバックアップファイルを、該当ディレクトリ(backup_41x_to_420)に配置
【STEP 6】
同ディレクトリ(backup_41x to_420)の convert.php を実行し v4.2.0 用のバックアップファイルを生成
【STEP 7】
Ver4.2.0 用のバックアップファイルを、該当ディレクトリ(backup_420_to_431)に配置
【STEP 8】
同ディレクトリ(backup_420_to_431)の convert.php を実行し v4.3.1 用のバックアップファイルを生成
【STEP 9】
Ver4.3.1 用のバックアップファイルを、該当ディレクトリ(backup_431_to_432)に配置
【STEP 10】
同ディレクトリ(backup_431_to_432)の convert.php を実行し v4.3.2 用のバックアップファイルを生成

(注意) -i オプションで共通暗号鍵ファイル(/opt/passlogic/lib/plcrypt.conf)を指定してください。

＜Ver 4.2.0 ⇒ Ver 4.3.2＞
Ver 4.2.0 のバックアップファイルをコンバーターで Ver 4.3.2 用のファイルに変換する際の大まかな流れは以下の通りです。

【STEP 1】
Ver4.2.0 用のバックアップファイルを、該当ディレクトリ(backup_420_to_431)に配置
【STEP 2】
同ディレクトリ(backup_420_to_431)の convert.php を実行し v4.3.1 用のバックアップファイルを生成
【STEP 3】
Ver4.3.1 用のバックアップファイルを、該当ディレクトリ(backup_431_to_432)に配置
【STEP 4】
同ディレクトリ(backup_431_to_432)の convert.php を実行し v4.3.2 用のバックアップファイルを生成

(注意) -i オプションで共通暗号鍵ファイル(/opt/passlogic/lib/plcrypt.conf)を指定してください。

＜Ver 4.3.0 ⇒ Ver 4.3.2＞
Ver 4.3.0 のバックアップファイルをコンバーターで Ver 4.3.2 用のファイルに変換する際の大まかな流れは以下の通りです。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

【STEP 1】
Ver4.3.0 用のバックアップファイルを、該当ディレクトリ(backup_430_to_431)に配置
【STEP 2】
同ディレクトリ(backup_430_to_431)の convert.php を実行し v4.3.1 用のバックアップファイルを生成
【STEP 3】
Ver4.3.1 用のバックアップファイルを、該当ディレクトリ(backup_431_to_432)に配置
【STEP 4】
同ディレクトリ(backup_431_to_432)の convert.php を実行し v4.3.2 用のバックアップファイルを生成

(注意) -i オプションで共通暗号鍵ファイル(/opt/passlogic/lib/plcrypt.conf)を指定してください。

具体的な流れは、以下の実行例を参照してください。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

② 実行例(Ver3.1.0 ⇒ Ver4.3.2)

以下の手順を順番に実行します。
- Ver3.1.0 のバックアップファイルを backup_310_to_401/convert.php でコンバートします。
- 出力された Ver4.0.1 のバックアップファイルを backup_401_to_411/convert.php でコンバートします。
- 出力された Ver4.1.1 のバックアップファイルを backup_41x_to_420/convert.php でコンバートします。
- 出力された Ver4.2.0 のバックアップファイルを backup_420_to_431/convert.php でコンバートします。
- 出力された Ver4.3.1 のバックアップファイルを backup_431_to_432/convert.php でコンバートします。

以下の実行例にある通り、一番最後の変換では、-i オプションで共通暗号鍵ファイル(/opt/passlogic/lib/plcrypt.conf)を指定してください。

```
(root 権限で実行)
 # mv {Ver 3.1.0 のバックアップファイル}
/opt/passlogic/apps/tools/backup_converter/backup_310_to_401/
# cd /opt/passlogic/apps/tools/backup_converter/backup_310_to_401/
# php convert.php  -f {Ver 3.1.0 のバックアップファイル} -o passlogicbackup_401.zip
  password : {バックアップファイルを取得する際に設定したパスワードを入力}
  Created backup file for target version:
                        passlogicbackup_401.zip        (注意)変換されたファイルが出力

 # mv ./passlogicbackup_401.zip ../backup_401_to_411/
# cd /opt/passlogic/apps/tools/backup_converter/backup_401_to_411/
# php convert.php -f passlogicbackup_401.zip -o passlogicbackup_411.zip
  password : {バックアップファイルを取得する際に設定したパスワードを入力}
  Created backup file for target version:
                        passlogicbackup_411.zip        (注意)変換されたファイルが出力

# mv ./passlogicbackup_411.zip ../backup_41x_to_420/
# cd /opt/passlogic/apps/tools/backup_converter/backup_41x_to_420/
# php convert.php -f passlogicbackup_411.zip -o passlogicbackup_420.zip
  password : {バックアップファイルを取得する際に設定したパスワードを入力}
  Created backup file for target version:
                        passlogicbackup_420.zip        (注意)変換されたファイルが出力

# mv ./passlogicbackup_420.zip ../backup_420_to_431/
# cd /opt/passlogic/apps/tools/backup_converter/backup_420_to_431/
```


Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

```
# php convert.php -f passlogicbackup_420.zip -i /opt/passlogic/lib/plcrypt.conf -o
passlogicbackup_431.zip
  password : {バックアップファイルを取得する際に設定したパスワードを入力}

  Created backup file for target version:
                                passlogicbackup_431.zip        (注意)変換されたファイルが出力


# mv ./passlogicbackup_431.zip ../backup_431_to_432/
# cd /opt/passlogic/apps/tools/backup_converter/backup_431_to_432/
# php convert.php -f passlogicbackup_431.zip -i /opt/passlogic/lib/plcrypt.conf -o
passlogicbackup_432.zip
  password : {バックアップファイルを取得する際に設定したパスワードを入力}

  Created backup file for target version:
                                passlogicbackup_432.zip        (注意)変換されたファイルが出力
```


Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

1.2.2 入力必須項目とオプション

入力必須	説明
-f {パス}	コンバーターのバージョンに対応したバックアップファイルを指定します。
オプション	**説明**
-o {パス}	コンバート後のファイルの出力先パスを指定します。 出力先パスに同名のファイルが既に存在する場合、上書きします。 出力先パスにはファイル名(*.zip)まで含める必要があります。 (例) /usr/local/src/passlogicbackup.zip 指定がない場合は、実行ディレクトリ passlogicbackup_converted.zip という名前で作成します。
-i {パス}	共通暗号鍵を指定する場合に、共通暗号鍵を記述したファイルへのパスを指定します。(注意)1 backup_310_to_401/covert.php では指定することができません。 指定がない場合はデフォルト共通暗号鍵値を利用します。
--param1 ～ --param10	シングルサインオンでベーシック認証を使用している場合に指定します。 ベーシック認証のパスワードパラメータとして設定しているパラメータを指定します。param5 をベーシック認証用のパスワードにしている場合は、--param5 を指定します。

(注意)1 詳細については、インストールガイドの『共通暗号鍵の再作成(任意)』を参照してください。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

1.3 Ver 4.3.2 でのバックアップファイルからのリストア

PassLogic Ver 4.3.2 の管理ツール・メンテナンス画面にてリストアを行います。「1.2 Ver 4.3.2 でのバックアップファイルの変換」にて変換を行ったバックアップファイルを使用してください。

メンテナンス画面

https://{PassLogic サーバ FQDN}:12443/passlogic-maintenance/

PassLogic Enterprise Edition Ver 4.3.2 管理者ツール・メンテナンス画面

②で変換済みのバックアップファイルを指定し、③ではバックアップ時のパスワードを指定してください。④ではリストアモードを指定します。冗長化構成の環境にリストアする場合、以下の注意事項をご確認ください。

（ｉ）Ver 3.1.0（または Ver 4.1.x, Ver 4.2.0, Ver 4.3.0, Ver 4.3.1）のバックアップを取得した環境と、リストアする環境で認証サーバの IP アドレスが異なる場合、リストアモードは必ず「データベース情報をリストア」又は「データベースおよびサーバ固有情報をリストア※冗長化設定を除く」を選択してください（「サーバ固有情報をリストア」および「データベースおよびサーバ固有情報をリストア」を選択しないでください）。特に、「シングル構成から Ver 4.3.2 の冗長化構成に移行する」場合、「冗長化構成から IP アドレスが異なる Ver 4.3.2 の冗長化構成に移行する」場合は、ご注意ください。

（ⅱ）「データベース情報をリストア」を選択した場合、ライセンスファイルを両系の認証サーバで再登録してください。

⑤送信を行うとリストアが実行されます。リストア完了後の「admin」のパスワードは、バックアップを取得した環境で設定した値となります。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

また、コマンドラインからもバックアップファイルをリストアすることが可能です。バックアップファイルを /opt/passlogic/tmp/passlogicbackup.zip にアップロード後、以下のコマンドを実行してください。

```
# sh /opt/passlogic/apps/tools/restore.sh {バックアップファイルのパスワード} >
/var/log/passlogic/passlogic-restore.log
```

（注意）「> /var/log/passlogic/passlogic-restore.log」を省略すると、実行結果が標準出力に出力されます。

（注意）リストア実行後、アップロードしたファイルは削除されます。

（注意）実行結果(/var/log/passlogic/passlogic-restore.log 等)にエラー出力がないことを確認してください。

（注意）冗長化構成の環境で、リストアモード「データベース情報をリストア」にて実行する場合は「-d」オプションを付与してください。詳細は『インストールマニュアル 5.5 メンテナンス リストア』をご参照ください。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.

2 注意事項

- バージョンアップ前の環境で WebSSO(Reverse Proxy > SSO 設定)の設定がある場合、ご利用の認証方式がバージョンアップ後でも設定可能な認証方式であることをご確認ください。
- Ver 4.3.2 での正常な稼働が確認できるまで、旧バージョンのサーバ環境はアンインストールや破棄はせずに、そのまま保管をお願いします。
- バックアップファイルの取得はスケジューリングした自動実行タスクが動作しない時間帯に行ってください。
- バックアップコンバーターでのバックアップファイルの変換の実行は、Ver 4.3.2 インストール後の初期状態(設定変更を実施していない)の環境にて行ってください。弊社では設定変更を実施した Ver 4.3.2 環境での変換は確認しておらず、正しくデータが変換されない可能性があります。
- 冗長化構成で、両系に設定ファイルの差異がある場合、データ移行後に手動で設定を行う必要があります。
- マルチテナントをご利用の場合は、個別に対応させていただきますのでお問い合わせください。

Copyright (C) 2021 Passlogy Co., Ltd.